

インタラクティブ・ライティング・コミュニティを 活用した英語コミュニケーション教育

今 村 洋 美*

Facilitating Communication in English on Interactive Writing Community Web Site

Hiromi IMAMURA*

1. はじめに

学生たちの英語コミュニケーション活動を促進するため、Interactive Writing Community (IWC) サイト (<http://www.sfc.keio.ac.jp/iwc/IWC/>) 上で1998年度以降4年間にわたり、慶応大学、上智大学、中部大学をはじめ国内外の学生たちと様々なトピックについて英語によるコミュニケーションを行ってきた。¹⁾

このIWCは、「文章は書かれるだけではいけない。読まれなければならない」をモットーとして運営されている。つまり、参加学生が常に「読者」を意識しながらテーマに添った英文を書いてIWCに掲載したり、他の興味ある英文エッセイに対する「コメント」を英語で書き込んでいくことで、クラスや大学の枠を超え地球規模での英語によるコミュニケーション活動を促進していくことを目標として実施されてきた。1998年度以降毎年このIWCを開発・実践していく中で様々な問題点が生じたが、より有効に学生たちに活用されるように、さらに改良しバージョンアップしたIWCの開発および実践を進めていった。1998年4月から1999年7月(第1期から第3期)までの開発および実践内容は、論文「インタラクティブ・ライティング・コミュニティ(IWC)の開発と実践」の中で報告している。²⁾

本稿では主として、1999年7月までに「インタラクティブ・ライティング・コミュニティ(IWC)」を開発し運用する中で生じた問題点や課題³⁾を検討することにより、1999年9月以降バージョンアップしたこのIWCの改良点や特徴を報告し、改良されたIWCを実際に活用

*外国語教室 (Department of Foreign Languages)

して取り組んだ英語コミュニケーション記録の特筆すべき点や今後の課題や可能性について述べていきたい。

2. インタラクティブ・ライティング・コミュニティ(IWC)の開発と改良

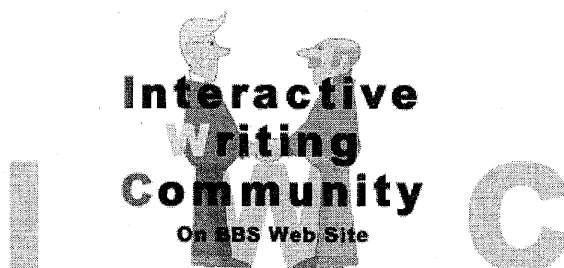
1998年4月から1999年7月(第1期から第3期)までの開発および実践を経て、1999年9月(第4期)以降、このインタラクティブ・ライティング・コミュニティには数々の点で改良がなされた。ここでは、それらの主な改良点を具体的に解説したい。

2.1 インデックスページの刷新とカテゴリー&トピックの充実

1998年4月から1999年7月までをIWCの初期段階とすれば、1999年9月(第4期)以降まず大きく変わったのは、IWCのインデックスページの刷新と、カテゴリーおよびそこに盛り込まれたトピックを充実させたことである。

第3期のIWCは、大きく分けて“Essays on BBS”と“Intercultural Classroom Connections (ICC)”の2つのコーナーから構成されていた。ICCのサブカテゴリーには「1. Annual Events and Festivals」と「2. Daily Life」が設けられ、そこに各トピックが配列されていた。さらにそれらのカテゴリーに入らないエッセイを投稿できるよう「3. Others」というカテゴリーも設定されていた。⁴⁾

第4期以降は、1つ目の“Essays on BBS”を「Global Issues」, 「For & Against」, 「Writing for Pleasure」, 「Introspection」の4つのカテゴリーへと再編成し、2つ目の“ICC”をいくつかのトピックを見直して新しいカテゴリー「Intercultural Classroom Connections」とし、すなわち計5つのカテゴリーとした。その内訳として、「Global Issues」には“Reaching Out for World Peace”をはじめとする11のトピックが、「Intercultural Classroom Connections」には「1. Annual Events and Festivals」の“New Year”をはじめとする8つのトピックと「2. Daily Life」の“Ceremonies and Customs”をはじめとする18のトピックの計26のトピックが、「For & Against」には“College Students: Should they study hard?”など22のトピックが、「Writing for Pleasure」には“What I’m Thinking Most About”など15のトピックが、そして最後の「Introspection」には“I would not be what I am today were it not for ...”をはじめとする12のトピックが提供されている。つまり、5つのカテゴリー計86ものトピックが提供されている。次ページの図1は、第7期(2001年前期)のIWCのインデックスページの1ページ目である(http://www.sfc.keio.ac.jp/iwc/IWC/index_2001s.html)。これをみても、2001年度前期だけでもこのIWCに国内外から24,507人がアクセスし1,259の英語のエッセイが投稿されたのが分かる。



Keio University students in Japan invite classrooms from around the world to discuss culture and other interesting topics using their Bulletin Board System.

This website was last updated on March 29, 2001.
BBS pages are updated just in time by BBS program.

1. What is IWC?

- [About IWC](#)
- [IWC How To](#)
- [Syllabus](#)
- [Achievements](#)

2. What's happening?

- [Find a Person](#)
- [Find an Essay](#)
- [Hot Topics of BBS](#)
- [For&Against Survey](#)

3. Who will win the races?

- [Writing Marathon](#)
- [Comment Olympics](#)
- [Peer Essay Evaluation](#)
- [Peer Comment Evaluation](#)

• [Links](#)

• [Interactive Reading Community](#)

- [IWC: Creating the ties that bind students all over the world together](#)
- [Participation Guidelines for Keio University, SFC and Sophia University Students](#)

Currently there are 1259 articles.

You are the 024507th Visitor.

The two boxes after the topics indicate the number of essays and date of last essay posted.

Global Issues

We have now reached the point where we can see the beginning of a new global society. We will have to think of ourselves not as individuals apart from other human beings, but as individuals who are immersed in, and are of, common humanity. Students will consider the themes which are important for the common destiny of the world.

• Reaching Out for World Peace	9	Jul.12
• What is true happiness?	72	Sep.12

ICC Intercultural Classroom Connections

Intercultural Classroom Connections gives students the opportunity to explore many aspects of Japanese culture and other cultures and gain a deeper understanding of each culture. The shared personal experiences and knowledge will be a key unlocking the wonders of a country thousands of miles away.

1. ANNUAL EVENTS AND FESTIVALS

• New Year	0	N/A
• Coming-of-Age Ceremony	8	Jun.6

<http://www.sfc.keio.ac.jp/iwc/IWC/newbbs2001s/index.cgi>

図1 IWCのインデックスページの1ページ目（2001年度前期）

IWCのインデックスページは、カテゴリーとそこに盛り込まれたトピックを充実させただけでなく、各トピックの後にエッセイの投稿数と最新エッセイの投稿日が掲示されるようになり、現在のIWC状況が一目で分かるようになった。さらに、最新のエッセイが48時間以内に投稿されたトピックには、各トピックの前の印が赤く点灯するようになった。これにより、ホットな話題が何であるかが分かり易くなり、新しいエッセイを読んでみようという気持ちも強くなり、以前にも増してインタラクティブな英語によるコミュニケーションが促進されるようになった。

2.2 新規エッセイ投稿ページの刷新と機能の充実

2つ目に大きく変わったのは、新規エッセイ投稿ページを刷新し機能を充実させたことである。

新規エッセイを投稿するには、まずIWCのインデックスページに表わされている様々なトピックから興味のあるものをクリックし、“How to Contribute Your New Essay”というコーナー(図6参照)をクリックすると、新規エッセイを投稿するページとなる。次ページの図2は、1999年9月以降に改良されたIWCへの新規エッセイ投稿ページである。旧バージョンの「図6 IWCへの新規エッセイ投稿ページ⁵⁾」と比較してみよう。

まず、“Your Name”のコーナーに以前は学校名も一緒に記入するよう指示されていたが、“School”のコーナーを独立させて記入しやすくなった。しかも、もしも“Your Name”、“School”、“Title of your Essay”、“E-mail Address”のどれかに記入漏れがある場合、“Post”のボタンを押すと以下のような警告が現われ、記入漏れを防ぐよう工夫がなされた。

Please fill out the article form

*Your Name

*School

*Title

*E-mail Address

The item(s) above are empty. Please go back with your browsers' 'back' button and fill out above item(s).

次に改良した点は“Essay”コーナーの充実で、今回の変更で最も改善された点である。以前は、まず別のWord Processorで原稿を書いてスペルチェックをかけた後それをコピー&ペーストして投稿するよう指示がなされていたので、パラグラフ構成について意識しないで書く学生が多く、貧弱な内容のエッセイも多く見られた。そこで、“Essay”のコーナーを“Introduction”、“Body”、“Conclusion”の3つのパートに編成しなおし、投稿する際3つのパートに分けてコピー&ペーストさせることにより、英文のパラグラフ構成を意識して書くよう指導ができるようになった。

Your Name

E-Mail
 When someone makes a comment on this essay, an e-mail will be sent to you

Home Page URL

School
☐ Keio SFC, Japan
☐ Sophia University, Japan
 The others (Please put your school's name below.)

☒ Please Check this box.(The Information above will be stored in the browser. Whenever you visit the website again, you do not have to input this information. Using HTTP-cookie)

Title of your essay

Essay
 In order to post an essay on this BBS, your essay must consist of three parts: Introduction, Body, and Conclusion. The essay must also have more than 300 words.

Introduction
 The first paragraph should clearly express who your essay is aimed at, why you are writing the essay, what issue you're addressing, and the goal of the essay.

Body
 After the introductory paragraph, you should elaborate on the issue and goal in the following ways: by giving examples, comparisons, by stating causes and effects, and etc. If you plan to write more than two paragraphs for the body, leave one line space between the paragraphs.

Conclusion
 In the concluding paragraph, you should summarize the contents of your essay. You can effectively conclude your essay in the following ways: by restating the issues you have discussed, by emphasizing the main points of the essay, by asking stimulating questions to the intended readers about the issues in your essay, and etc.

Summary of Your Essay (within 5 sentences)

Intended Audience
 Write with your intended audience in mind.

Essay Password
 If you want to delete this essay after you submit it, you need to input this password.

Interactive Writing Community Project, Keio University SFC JAPAN All rights since 1998

図2 IWCへの新規エッセイ投稿ページ（1999年9月以降改良版）

もちろん、投稿された文章は、エッセイの表示画面上では3つのパートがつながって1つのエッセイを形作るようになっている。さらに、以前はエッセイではなくチャット感覚で非常に短い文章などが投稿されたこともあったが、今回の改良により、300語以上のエッセイを書かないと投稿できないようになった。もしも、300語以下のエッセイを投稿すると以下のようなメッセージが現われ、現在のエッセイの語数も表示してくれるので、あと何語以上書き足せばよいか把握することもできる仕組みとなっている。

Your Essay must have more than 300 words.

Your Essay was 258 words.

Please go back with your browsers' 'back' button and fill out above item(s).

さらに今回の改良で新しく3つのコーナーを増設した。それは、“Summary of Your Essay”と“Intended Audience”と“Essay Password”のコーナーである。“Summary of Your Essay”には5文以内でエッセイの要約を、“Intended Audience”にはどのような人に特に読んでほしいかを書き込んでいく。この2つの情報は、後で紹介する“Find an Essay”のコーナーに掲載され、どのような内容のエッセイであるかなどが一目で分かり読みたいエッセイを探す際に大いに役立つようになった。最後の“Essay Password”のコーナーは、パスワードを入力してから投稿できるようになったため、以前はいったん投稿したエッセイを訂正したいと思っても管理者しか削除できず、訂正してもらうのに時間や労力がかかったのが、投稿した本人でも訂正が簡単にできるようになった。

2.3 Search機能の充実

3つ目の改良点は、いくつかのSearch機能を作り活用できるようにしたことである。主に、“Find a Person”, “Find an Essay”, “Hot Topics of BBS”の3つのSearch機能を作り、IWCのインデックスページの「2. What's happening?」の下位項目としてリンクを張ることにより（図1参照）、投稿した学生や友人のエッセイを探し出しやすくし、さらに英語でのコミュニケーションが促進されることをめざした。

1つ目の“Find a Person”をクリックすると、First nameのイニシャルからIWCに参加している学生のエッセイ記録を探することができるようになっている。例えば、First nameのイニシャルが“K”の学生を見てみよう。“K”をクリックすると、イニシャルがKの学生の投稿記録が次ページの図3のように現われる。各参加学生の名前の下に“Distance”とあるが、これはこのIWCにエッセイを投稿する度に6 kmが、コメントを書く度に3 kmが自動的に加算されていき、その合計が記録として棒グラフとなって表わされるようになっている。名前の横には、“E-mail”, “Web”, “School”名と最後に投稿した日時が記録されている。“E-mail”と“Web”をそれぞれクリックすれば、その学生にメールが送れる画面が立ち上がったたり、その学生の作った“Web”も見ることが出来る。ただ、“Find a person”機能は、各学生が自分の名前を少しでも間違えて入力してしまうと（大文字と小文字の違いでも）別人物とみなされ、2ヶ所以上に記録が分散して載ってしまうので、注意して自分の名前を入力させなければならない。しかし逆に、自分の名前を常に正確に英語で書けるようにさせるのにはよい指導法であるとも言えよう。

次に、2つ目の“Find an Essay”について解説しよう。図4は、2002年5月13日から19日までの週の“Find an Essay”で、この週に投稿されたエッセイの概要が一目で分かるようになっている。「2.2 新規エッセイ投稿ページ」でも述べたように、今回の改良で新しく増設した“Summary of Your Essay”と“Intended Audience”に書き込まれた内容もここにまとめられて表示されるように設定されたおかげで、最近話題のトピックや興味のある内容のエッセイを容易に見つけだし、読んでコメントを書きやすくなった。

最後に、3つ目の新機能の“Hot Topics of BBS”を見てみよう。これは、それぞれの学期ごとに最もコメントが書かれたエッセイのトップ10が掲示されるようになったものである。図5は、2000年度後期にIWC上で白熱した英語による議論がなされた“Hot Topics of BBS”である。この期間に最も熱い議論がなされたトピックは、“Education: Japan and the World”というトピックに投稿された“English education in Japan”で、40ものコメントのやりとりがなされたことが分かる。この“English education in Japan”というタイトルで交わされた英語でのコミュニケーションについては、次章で詳しく報告したい。



Find a person

Click the letter of the participant's first name initial and you will see a list of all the essays and comments they have written.

Initial : [a](#) [b](#) [c](#) [d](#) [e](#) [f](#) [g](#) [h](#) [i](#) [j](#) [k](#) [l](#) [m](#) [n](#) [o](#) [p](#) [q](#) [r](#) [s](#) [t](#) [u](#) [v](#) [w](#) [x](#) [y](#) [z](#) [ALL](#)

Writing Marathon: [Best 10](#) [ALL](#)

K

Name	E-Mail	Web	School	Last Article
Kaori Yamamoto	mail		Sophia	2001 July 26 18:40
Distance 96 km				
Kaori Yamamoto	mail		Sophia	2001 April 28 00:31
Distance 3 km				
Kareem Mohsen	mail		SECTI.SCECO, Saudi Arabia	2001 July 09 20:47
Distance 9 km				
Kazi Faisal Zaman	mail		Chubu University	2001 July 19 12:58
Distance 24 km				
Keiji Takahashi	mail		SFC	2001 July 28 00:17
Distance 81 km				
Kelli	mail	web	Frisco High	2001 April 23 23:47
Distance 12 km				
Kentaro Sakuragi	mail	web	Chubu University	2001 July 04 11:48
Distance 12 km				
Kentaro Saluragi	mail	web	Chubu University	2001 June 27 12:27
Distance 3 km				
Koichi Ogawa	mail		Sophia	2001 July 18 10:43
Distance 48 km				
Koichi Ogawa	mail		Sophia	2001 Oct. 24 09:58
Distance 6 km				
Kuniko Nakamura	mail		SFC	2001 July 27 00:56
Distance 78 km				
kana takarada	mail		Sophia	2001 May 31 11:47
Distance 24 km				
kareem mohssen	mail		SECTI.SCECO, Saudi Arabia	2001 June 03 17:14
Distance 3 km				
kazi faisal zaman	mail		Chubu University	2001 May 16 12:19
Distance 3 km				
khalid Al-Dossary	mail		SECTI,SCECO-EAST,Saudi Arabia	2001 July 10 17:15
Distance 9 km				

Interactive Writing Community Project, Keio University SFC JAPAN All rights since 1998

<http://www.sfc.keio.ac.jp/iwc/IWC/newbbs2001s/writer.cgi?initial=k>

図3 Find a Person のイニシャルがKの学生の投稿記録の1ページ目



Find an Essay

You can browse summaries of the essays posted during the last seven days.

[Previous Week](#) May 13 - May 19 [Next Week](#)

No. 577 [Lesson Through English](#)

Category	I would not be what I am today were it not for ...
Author(School)	Maiko Sakurai (Sophia)
Date & Time	May 19 14:17
Intended Audience	Those who have studied English and write an English essay today. They are concerned with English much, and get a lot of things through learning English.

You would study English so far. Probably you could get something through learning English. I' m not an exception. English gave me a lesson and made me what I am today.

No. 546 [My favorite actor](#)

Category	My Favorite Person
Author(School)	Saori Abou (Chubu University)
Date & Time	May 16 15:40
Intended Audience	I want to introduce my favorite Japanese actor named Yousuke Kubozuka. He is so cool and intelligent man. Anyway, he is nice guy.

I like the actor named Yousuke Kubozuka. I've supported him since he appeared in GTO. I'll support forever.

No. 495 [After I saw](#)

Category	I would not be what I am today were it not for ...
Author(School)	Lisa Kudo (SFC)
Date & Time	May 15 12:23
Intended Audience	People whom are interested in to media or the influence of television. Students, who have chances to learn from what the see. Ex, class, television, books, Internet, their experience and so on

One of the strongest messages is to see. There' s a saying is Japan that one sight is stronger than to hear it hundreds of times. The impact of visual images is worldwide, no matter what country; language, and culture, people get the information and message from it. And sometimes it will be the occasion starting to think.

No. 489 [Are you going to take refuge in foreign country?](#)

Category	I would not be what I am today were it not for ...
Author(School)	Keisuke Hirata (SFC)
Date & Time	May 15 09:34
Intended Audience	I wrote this essay to those who ache for foreign city and are not pleased with Japanese one. And I would like to blind over to change our city.

<http://www.sfc.keio.ac.jp/iwc/IWC/newbbs2002s/summary.cgi?date=20020519>

図 4 Find an Essay の 1 ページ目



Hot topics of BBS

[Return to top page](#)

The contributions sent within 48 hours are displayed in red.
You can see the ten most interactive BBS which have been receiving a lot of comments at the present time.

1. 040 responses in "Education : Japan and The World "
"English education in Japan" ---- Yuki Kunugi (Sophia) Nov. 09 10:47,2000
2. 024 responses in "Smoking: Should smoking be allowed in public places ? "
"I'm a Smoker and Non-Smoker" ---- Sousuke Utiyama (SFC) Oct. 2023:04,2000
3. 023 responses in "I would not be what I am today were it not for ... "
"Long Vacation" ---- Yuki Murayama (Sophia) Oct. 10 15:31, 2000
4. 022 responses in "College Students: Should they study hard ? "
"What it is to study" ---- Kentarou Ofuji (SFC) Oct. 18 23:47, 2000
5. 020 responses in "I would not be what I am today were it not for ... "
"Precious Music" ---- Yuki Kunugi (Sophia) Oct. 11 11:37, 2000
6. 020 responses in "I would not be what I am today were it not for ... "
"My six friends in my youthful days" ---- Yosuke Sakurai (Sophia) Oct.16 21:57, 2000
7. 019 responses in "What Makes Me Special? "
"Going with friends and rivals----For introduction" ---- Kentarou Ofuji (SFC) Oct. 20 02:26,2000
8. 017 responses in "Animal Rights: Should animals be used in experiments ? "
"No more!! Animal shouldn't be used in experiments!!!" ---- Natsumi Inano (Sophia X) Nov. 09 13:19,2000
9. 014 responses in "Should the U.S. bases be removed from Okinawa? "
"The needs of the U.S bases" ---- Erika Nakano (Sophia) Nov. 08 00:26,2000
10. 014 responses in "Languages and Communications "
"Cyber communication" ---- Kentarou Ofuji (SFC) Oct. 23 15:47, 2000

Interactive Writing Community Project, Keio University SFC JAPAN All rights reserved 1998-2000

<http://www.sfc.keio.ac.jp/iwc/IWC/newbbs2000f/besttree.cgi>

図5 Hot topics of BBS ページ

3. 改良されたインタラクティブ・ライティング・コミュニティ（IWC）の運用と考察

この章では、改良されたIWCを実際に活用して取り組んだ英語コミュニケーション記録を考察し、特筆すべき点について述べていきたい。

まずはじめに、図6の「Global Issues」の“What is true happiness?”での学生たちの交流記録を見てみよう。この“What is true happiness?”には2001年前期だけで72の投稿があり、その内訳として11のエッセイに61のコメントが投稿されたことが分かる。また、今回の改良により、48時間以内に投稿された記録は赤字で画面に表示されるようになったことで、どのエッセイやコメントが2日以内に書かれた新鮮な話題であるかが一目で分かり、よりスムーズに交流が進められるようになっている。図6に掲載されている慶応大学湘南藤沢キャンパスのShinobu Kanemoto さんの“life in a foreign country”と題したエッセイをめぐる一連の交流記録を具体的に見てみよう。このエッセイには、まず5人の学生が異なったコメントを書いている。それぞれのコメントにさらに返信のコメントが続き、1つのエッセイに対し計12のコメントが房のように繋がっているのが分かる。

次に実際に、最初にコメントを書いた5人のうちの3人目のKazi Faisal Zaman さんとのやり取りを見てみよう。図7は、Kanemoto さんがKazi さんの書いたコメントを読んで返信したコメントの内容である。“I am so surprised that I got comment from Bangladesh student!”と書いてるように、慶応大学の日本人のKanemoto さんが、Bangladeshへ行った体験談を踏まえて日本の現況と比較しながら「本当の幸せとは？」について書いたエッセイを投稿したところ、コメントの1人がBangladeshからの学生（しかも中部大学の留学生）で、非常に驚き返信のコメントを書いたのである。この後、さらにKazi さんから“Thank you for your reply !”と題したコメントが続くのであるが、これこそが、IWC上で日本にいながらにして国境を越えた生きた英語によるコミュニケーションが出来る特筆すべき点の1つであろう。



What is true happiness?

[Return to top page](#)

The contributions sent within 48 hours are displayed in red.

[How to Contribute Your New Essay](#)

[Tree Form](#)

[Number Form](#)

Click here and put your new essay on this page according to the directions.

The interactions are shown in the form of a tree. You can easily follow what kind of communication is taking place among the members.

All essays are listed according to the number shown at the end of each essay and its commentary.

Category 'What is true happiness?' has 72 articles. (11 base articles, 61 responses)

[Newer 10](#) [Older 10](#)

- [life in a foreign country](#) ----- Shinobu Kanemoto (SFC) April 25 20:18
 - [Re: life in a foreign country](#) ----- maiko ichikawa (Sophia) June 01 12:11
 - [Re: life in a foreign country](#) ----- Shinobu Kanemoto (SFC) June 07 16:32
 - [Re: life in a foreign country](#) ----- Hanako Kariya (SFC) May 31 10:30
 - [Re: life in a foreign country](#) ----- kazi faisal zaman (Chubu University) May 16 12:19
 - [Re: life in a foreign country](#) ----- Shinobu Kanemoto (SFC) May 21 17:19
 - [Thank you for your reply!](#) ----- Kazi Faisal Zaman (Chubu University) May 23 12:27
 - [Re: life in a foreign country](#) ----- Eiichi Takeda (SFC) May 11 01:23
 - [Let's think education!](#) ----- Shinobu Kanemoto (SFC) May 11 21:31
 - [Re: Let's think education!](#) ----- Eiichi Takeda (SFC) May 13 04:02
 - [Re: Let's think education!](#) ----- Shinobu Kanemoto (SFC) May 16 10:52
 - [Spiritual contents.](#) ----- harue (SFC) April 27 20:26
 - [Wonderful words from you](#) ----- Shinobu Kanemoto (SFC) April 29 15:38

Keywords :

Interactive Writing Community Project, Keio University SFC JAPAN All rights reserved since 1998

図6 「Global Issues」の「What is true happiness?」トピックの交流記録

Re: life in a foreign country

This is a comment on article 'Re: life in a foreign country' by kazi faisal zaman.

CATEGORY: What is true happiness?
 AUTHOR: Shinobu Kanemoto
 SCHOOL: SFC
 E-MAIL: s99275sk@sfc.keio.ac.jp
 WEB PAGE:
 DATE & TIME: May 21 17:19
 INTENDED READERS:

Hi! Thank you for your comment.

Hello. My name is Faisal Zaman. I'm a sophomore student in the Architecture Dept. of Chubu University. I am an overseas student in Japan coming from Bangladesh. I read your essay and found a similarity between your opinion and mine.

I am so surprised that I got comment from Bangladesh student! I went to "Langabary" which was located the south of Bangladesh. In the island, I spend so wonderful time. Every local people was very kind to us(Japanese members). They gave me fruits that contains much vitamins.

I never forget the time in Bangladesh. After you get the master of your field, Will you get back to Bangladesh? How is your college life in Japan? I hope you enjoy the school life in Japan as much as possible. Thank you very much for reading my essay. See you again!

To make a comment on this essay

Comments

Thank you for your reply!

Kazi Faisal Zaman(Chubu University)

May 23 12:27

図 7 エッセイ “Life in a foreign country” へのコメント例

このKazi Faisal Zamanくんは、中部大学の筆者の情報英語を受講してこのIWCプロジェクトに参加していた学生の1人である。実際に彼がIWC上でどのようなやり取りをしたかを見た時は、2章で説明した“Find a person”機能を使えばよい。図3のKazi Faisal Zamanの部分をクリックすると、図8のようにKaziくんの記録を詳細に見ることができる。投稿順に、投稿したエッセイやコメントのタイトルとその投稿したカテゴリー名、更に投稿日時と“Writing Distance”が記録されている。“Writing Distance”は先ほども解説したように、コメントを投稿すると3 km、エッセイを投稿すると6 km与えられ、最後に合計キロ数も明記されている。これらの記録の下に、1週間ごとに投稿した記録がグラフでも自動的に書き込まれていくので、一目瞭然に各学生の投稿記録が分かるようになっている。この“Find a person”は、学生たちが自分

や友だちの投稿記録をここで確かめられるだけでなく、教員にとっても各参加学生の投稿記録を自分で取らなくてもこの機能を活用することで、指導やアドバイスをしたり評価をする際に大いに役立つ機能である。



Find a person

Click the letter of the participant's first name initial and you will see a list of all the essays and comments they have written.

Initial : [a](#) [b](#) [c](#) [d](#) [e](#) [f](#) [g](#) [h](#) [i](#) [j](#) [k](#) [l](#) [m](#) [n](#) [o](#) [p](#) [q](#) [r](#) [s](#) [t](#) [u](#) [v](#) [w](#) [x](#) [y](#) [z](#) [ALL](#)
 Writing Marathon: [Best 10](#) [ALL](#)

Kazi Faisal Zaman

School : Chubu University
 Web Page URL :
 E-Mail Address : a00040@isc.chubu.ac.jp

Title	Category	Time	Writing Distance
Thank you for your reply!	What is true happiness?	May 23 12:27	3 km (Comment)
Comment on 'Reunion of old classmates'	Coming-of-Age Ceremony	June 06 12:22	3 km (Comment)
Re: Mohammed Al-Eid's "TURE LOVE IS ALWAYS SOMETHING YOU'RE NOT SURE OF!"	What is true happiness?	June 13 12:26	3 km (Comment)
The population explosion : What will we feed our new born babies ?	The Population Explosion, Food and Emergency Crises : What Will The Future Hold?	June 20 18:00	6 km (Essay)
Student life in Japan.	Write about an experience where you cried your heart out.	July 04 14:01	6 km (Essay)
Thanks to Tetutaro Iwaoka san to read my essay.	The Population Explosion, Food and Emergency Crises : What Will The Future Hold?	July 19 12:58	3 km (Comment)
Total :			24 km

Below you can graphically see the total distance of your posted essay and comments for every week. You can use this feature to evaluate how much you were engaged in IWC each week throughout this semester.

Week 1 2001/04/01 - 2001/04/08	
Week 2 2001/04/09 - 2001/04/16	

図8 “Find a Person” による1学生の投稿記録

ここで、改良された IWC を実際に活用して取り組んだ数々の英語コミュニケーション記録を見ていく中で見受けられた顕著な特徴をもう 1 つ報告したい。次の例は、中部大学の Saori さんが書いたエッセイ “My favorite actor” を読んだ上智大学の Masakatsu くんが書いたコメントからの抜粋である。⁶⁾

Hi! I enjoyed reading your essay “My favorite actor”.

First of all, I think that the title of your essay was very good. When I was choosing essays to do my homework of making comment to two essays, it didn't take long time to select yours because of your essay's title. It was very effective in drawing people's attention.

In your first paragraph, you have written the specific profile of your favorite actor. This was also interesting. I had known his name but not so particularly, so I was very happy that I became a little bit more familiar with him.

The body and conclusion of your essay was also well-done. However, you had better separate your body part so that we can read it more easy and plainly.

On the whole, I had a good time thanks to your essay. Thank you!

このコメントで述べられているように、Saori さんのエッセイについて、注目を引くよいタイトルであったこと（タイトルの重要性）や、第 1 パラグラフで好きな俳優の特徴がよく書かれており、本文もまとめも全体として良く書けていて楽しく読めたと評価している。その上で、本文が 1 パラグラフ構成で長過ぎて少し読みづらいので、2～3 パラグラフに分けて簡潔に書きもっと読みやすくした方がいいのではと、今後よりよいエッセイを書いていく上でのアドバイスも行っている。このように、教師からではなく、IWC に参加している学生たち自身が、お互いに書いたエッセイについて評価し合い、どのように書けばもっと良いエッセイになるかを IWC 上でアドバイスし合っているのである。これこそが、IWC 上で英語でコメントを書き合う中で真の英語によるコミュニケーションがなされ、互いを向上し合うという Interactive Writing Community の目指す理想的な姿の 1 つであると言える。

次に、“Writing Marathon” に記録された学生の参加状況を見てみよう。先程 “Find a person” でも、IWC にコメントを投稿するごとに 3 km、エッセイを投稿するごとに 6 km 与えられ、“Writing Distance” として学生たちが自分や友だちの投稿記録を確かめられると述べたが、参加学生の投稿キロ数が多い順に記録を見られるようにしたのが、この “Writing Marathon” である。

図9は、2001年度前期にIWCに参加した学生の投稿距離トップ10の記録である。一番多く投稿したのは、Shinobu Kanemotoくんで、4ヶ月足らずに計129 km分もIWC上で英語でのやり取りをしたことになる。各学生がどのような内容のエッセイやコメントを投稿したかは、“Find a person”と同様に名前の部分をクリックすると、図8のような記録を詳細に見ることができる。この“Writing Marathon”で、自分や友だちが現在どれくらいIWCに参加しているかを客観的に確かめられ、もっと積極的に参加しようという気持ちになったという参加学生からの反応やコメントも見られた。



Writing Marathon

All the participants who post their essays or comments are automatically registered in the Writing Marathon game. The distance is calculated by the number of postings. When you post an essay on the BBS, you receive 6 km. When you post a comment, you receive 3 km.

Initial : a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z ALL

Ranking: Best 10 ALL

Rank	Name	E-Mail	Web	School	Last Article
1	<u>Shinobu Kanemoto</u>	<u>mail</u>	<u>web</u>	SFC	2001 July 25 13:39
	Distance 129 km				
2	<u>taishi kobayashi</u>	<u>mail</u>		Sophia	2001 Oct. 07 16:00
	Distance 117 km				
3	<u>Muneyuki Hashimoto</u>	<u>mail</u>		SFC	2001 July 27 07:21
	Distance 114 km				
4	<u>Mayu Inoue</u>	<u>mail</u>	<u>web</u>	SFC	2001 July 26 13:51
	Distance 108 km				
5	<u>harue</u>	<u>mail</u>	<u>web</u>	SFC	2001 July 26 13:13
	Distance 102 km				
6	<u>emiko suto</u>	<u>mail</u>		Sophia	2001 July 31 12:17
	Distance 99 km				
7	<u>Kaori Yamamoto</u>	<u>mail</u>		Sophia	2001 July 26 18:40
	Distance 96 km				
7	<u>yuki otomo</u>	<u>mail</u>		SFC	2001 July 25 20:52
	Distance 96 km				
9	<u>Hanako Kariya</u>	<u>mail</u>	<u>web</u>	SFC	2001 July 09 19:03
	Distance 93 km				
9	<u>Nobuya Kobayashi</u>	<u>mail</u>	<u>web</u>	SFC	2001 July 14 16:57
	Distance 93 km				

Interactive Writing Community Project, Keio University SFC JAPAN All rights since 1998

図9 “Writing Marathon”に見る投稿記録（2001年度前期）

最後に、“Hot topics of BBS”について考察してみよう。これは、2.3の「Search 機能の充実」の節でも述べたように、それぞれの学期ごとに最もコメントが書かれたエッセイのトップ10が掲示されるようになったものである。例として、2000年度後期にIWC上で白熱した英語による議論がなされた“Hot Topics of BBS”を詳しく見てみよう（図5参照）。この期間に最も熱い議論がなされたトピック第1位は、“Education: Japan and the World”であった。そこに投稿された“English education in Japan”には40ものコメントが書かれており、日本の英語教育に対して学生たちが最も興味を持って英語で意見を交わした記録が掲げられている。続く2位以下には、“Smoking: Should smoking be allowed in public places?”, “I would not be what I am today were it not for ...”, “College Students: Should they study hard?”などが続いており、いずれも、学生自身でお互いに重みのあるトピックに真剣に英語で議論をしているのが読み取れる。

次ページの図10は、上智大学のYuki Kunugiさんが書いたエッセイ“English education in Japan”を読んで書かれた40のコメントの1つで、慶応義塾女子高等学校のJune Oikawaさんのものである。OikawaさんはKunugiさんの意見に賛成し、「日本の英語教育は数々の点で改善されなければならない、そして英語教育を小学校から始めるべきだ」と述べている上で、「スピーキングだけでなく正しい文法の知識を身に着けることの重要性」も強調している。そして結論で、「スピーキングと文法の両方を身に着けることで、英語でエッセイが書けたりスピーチができる地球人を育てることができるであろう」と、我々英語教師が言わんとしていることを、このIWC上で学生たち自らが真剣に英語で議論し合っているのである。

[Return to top page](#)

Re: English education in Japan

This is a comment on article "[English education in Japan](#)" by Yuki Kunugi.

CATEGORY: [Education: Japan and The World](#)
 AUTHOR: [June Oikawa](#)
 SCHOOL: Keio Girls High
 E-MAIL: guruguru32@hotmail.com
 WEB PAGE:
 DATE & TIME: Feb. 21 00:15

I enjoyed reading your essay.

I don't support the system of English education in Japan. Many Japanese people can't speak and listen English. What is the cause of this problem? I think the cause is the system of English education in junior high school and high school. We have to communicate with many foreign people. English is the common language in this world, so we have to learn English.

I agree to your idea that English education in Japan has to be improved. In these days, speaking English is indispensable, however, it is also true that many Japanese people are not good at speaking English.

Second, English education should be started from elementary school, I think. It is important for people who study foreign language to get used to foreign language from childhood. I think studying foreign languages as important as studying mother language from now.

I strongly support your idea that English education should be started from elementary school. I think that one of the reasons of Japanese people not able to speak is that we think too much. When I try to speak English, many thoughts go across my mind: Is this grammar right? Is this word pronounced correctly? And so on. Though I had the right sentence in my head I often hesitate to start a word. Getting use to the foreign language from the childhood may solve this problem. I also think that it is important to make an environment, which we have to speak English. In Japan, we are never forced to speak foreign language. In order for us to be able to express our own assertion, I think we need to have a program like "discussion," at school. By just repeating ready-made dialogues, we never can create our own expressions and speak from heart.

I think communicating with foreign people is very important. English is a worldwide language. We have to speak and listen English from now. I think the system of English education in Japan should be changed in order to increase Japanese people who can speak English well.

There is another point that I want to state. Speaking English is very important, however, we also have to remember that having right knowledge in grammar is as important as speaking. I have been living in the State for about 4 years. From my experience, I know that there are many people who speak English as mother tongue and do not know the grammar. The purpose of learning English is to be able to use it freely in international society. We are expected to speak intellectual English, and learning grammar is essential.

In conclusion, I think English education has to be improved in oral part, and also keep up learning grammar. I believe that being compatible with both speaking and grammar is what is expected now for English education in Japan. I think filling up these conditions would rear global person who can write essay and make a speech in English.

<http://www.sfc.keio.ac.jp/iwc/IWC/newbbs2000f/article.cgi?id=1591>

図10 “English education in Japan” へのコメント例 (Hot topics of BBS より)

4. おわりに

1998年4月から開発を手掛け現在に至るまで、様々な改良および実践を重ねる中で、特に1999年9月（第4期）以降、このインタラクティブ・ライティング・コミュニティは数々の点でより充実したものとなった。⁷⁾ 慶応大学、中部大学をはじめとする日本の大学のみならず、アメリカ合衆国、韓国、サウジアラビアなどの海外の大学からの参加で、英語によるコミュニケーションの輪も広がり質的にも量的にもより充実したものとなった。しかも大学生だけでなく、慶応義塾女子高等学校、Frisco High School（アメリカ合衆国）などの高校生もこのIWCの輪に入り、高校や大学の枠を越えた中身の濃い英語による交流がなされるようになった。学校やクラスの枠だけでなく、学生と教員の枠も超えた英語による地球規模のコミュニケーション共同体へと成長を続けている。このIWCには、ここ2～3年毎学期1,000以上の英語のエッセイが投稿され、2002年5月30日現在43,203以上のアクセス数に達している。

ただし、今年で5年目に入ったIWCも、今以上に使いやすく効果的な英語教育活動の場になるよう常に改良を進めていかなくてはならない。しかも、海外の学生からの参加が以前より増えたとはいえ、まだその数は限られている。今後さらに海外の学校への参加を呼びかけるとともに、IWC上でより多くの国々の学生の間で生きた英語による異文化コミュニケーションが行われるよう絶えず努力を続けていきたい。

注

*本稿は、大学英語教育学会第40回全国大会（2001年9月）での研究発表、「インタラクティブ・ライティング・コミュニティを活用した英語コミュニケーション教育」の内容に加筆および修正を加えたものである。

- 1) このIWCサイトは慶応大学藤沢湘南キャンパスのサーバー上にあり、運営は主として慶応大学非常勤講師の水野氏と学生アシスタントによってなされている。
- 2) 『中部大学国際関係学部紀要』第24号, pp.145-164.
- 3) 詳しくは、「インタラクティブ・ライティング・コミュニティ(IWC)の開発と実践」の「4. IWCの問題点および今後の課題(pp.161-162)」を参照されたい。
- 4) 詳しくは、「インタラクティブ・ライティング・コミュニティ(IWC)の開発と実践」の153ページに掲載された「図4 Interactive Writing Community (IWC)のインデックスページ」, および http://www.sfc.keio.ac.jp/iwc/IWC/index_1999s.html を参照されたい。
- 5) 『中部大学国際関係学部紀要』第24号, p.156.
- 6) 詳しくは, http://www.sfc.keio.ac.jp/iwc/IWC/index_2002s.html の「Writing for Pleasure」の“My Favorite Person”を参照されたい。
- 7) 1998年4月からの現在に至るまでの記録は, IWCのインデックスページ (<http://www.sfc.keio.ac.jp/iwc/IWC/>) の“Achievement”を参照されたい。

参考文献

- 朝尾幸次郎 他編 (1996)『インターネットと英語教育』 大修館書店
- 今村洋美 (1996)「インターネットを利用したプロジェクトの紹介：中部大学での実践」『インターネットと英語教育』大修館書店 pp.183-185.
- 今村洋美, 水野邦太郎 (2000)「インタラクティブ・ライティング・コミュニティ(IWC)の開発と実践」『中部大学国際関係学部紀要』, 第24号, pp.145-164.
- 尾関修治 他 (1998)「情報英語の実践：中部大学における英語授業とインターネット」『第37回(1998年度)JACET全国大会要項』 pp.87-88.
- 杉本卓, 朝尾幸次郎 (2002)『インターネットを活かした英語教育』大修館書店
- 高島英幸 (1995)「Interactive Approach (インターアクティブ・アプローチ)」『現代英語教授法総覧』大修館書店 pp.280-295.
- 野澤和典 (1999)「Web-based CALLプログラムの開発と実践」立命館教育科学 プロジェクト研究シリーズXI 外国語教育におけるFD研究 pp.81-88.
- 山内豊 (1996)『インターネットを活用した英語授業』NTT出版
- Muehleisen, Victoria (1997) *English via the Internet: Using the Internet in University Classes*. Call: Basics and Beyond, pp.37-40.
- Oxford, Rebecca L. (1997) *Cooperative learning, collaborative learning, and interaction: Three communicative strands in the language classroom*. The modern language journal, 81(4), pp.443-456.
- Rivers, W.M. (1987) *Interactive Language Teaching*. Cambridge University Press.